

デンタルカリエス エッセンシャル

原著第4版

Essentials of Dental Caries, Fourth edition

Edwina Kidd (King's College London 名誉教授) 著
Ole Fejerskov (Aarhus University 名誉教授)

大庭俊太郎 (伊藤デンタルクリニック) 訳
伊藤 直人 (伊藤デンタルクリニック)

デンタルカリエス エッセンシャル

原著第4版



Essentials of Dental Caries, Fourth edition



著 Edwina Kidd
Ole Fejerskov
訳 大庭俊太郎
伊藤 直人



医歯薬出版株式会社

■ B5判 / 192頁 / カラー

■ 定価8,360円
(本体7,600円+税10%)

■ ISBN978-4-263-44677-5



「齲蝕は感染症であり伝染病である」 という概念は過去のもの すべての齲蝕はシンプルな方法で コントロール可能である

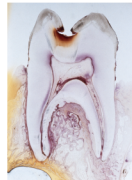
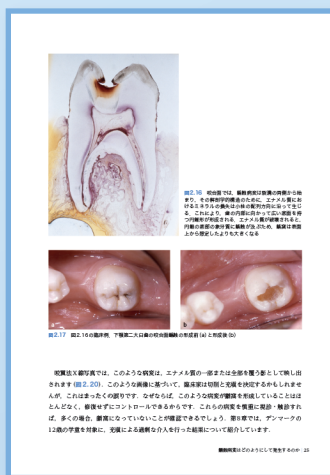


図2.17 図2.14と同様、下顎第二臼歯の齲蝕の進行を示す断面図(20倍)

従来の学説では、このような齲蝕は、エナメル質の一部または全部を侵襲するとして扱われてきました(図2.20)。このような齲蝕に対して、臨床家は初期と重症とを決定するがしませんでした。これは事実であり、なぜならば、このような齲蝕が進行していることはほとんどなく、齲蝕がコントロールされるべきです。これらの齲蝕を重症に分類し、治療すれば、多くの場合、齲蝕は変わらないことが確認できましよう。従って、デンタルの12巻の序言に、従来の齲蝕の分類はもう使われていないことについて紹介しています。

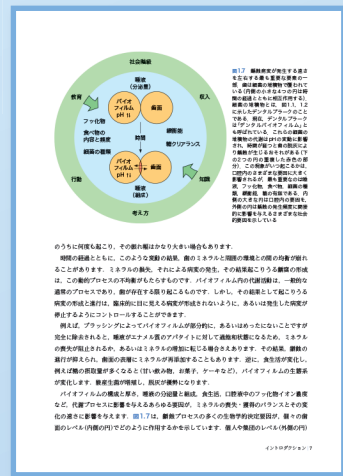


図2.7 齲蝕が形成されるには、歯の表面に細菌が定着し、歯質を侵襲する必要がある。この過程には、細菌の付着、増殖、代謝産物の産生、宿主の免疫応答、および宿主の歯質の特性が関与している。

この図は、齲蝕の形成に寄与する要因を示しています。細菌の付着は、歯の表面に細菌が定着し、歯質を侵襲する必要がある。この過程には、細菌の付着、増殖、代謝産物の産生、宿主の免疫応答、および宿主の歯質の特性が関与している。

表2.1 齲蝕の発生率(%)

年齢	性別	齲蝕率	齲蝕率	齲蝕率	齲蝕率
1歳	男	10.0	10.0	10.0	10.0
2歳	男	20.0	20.0	20.0	20.0
3歳	男	30.0	30.0	30.0	30.0
4歳	男	40.0	40.0	40.0	40.0
5歳	男	50.0	50.0	50.0	50.0
6歳	男	60.0	60.0	60.0	60.0
7歳	男	70.0	70.0	70.0	70.0
8歳	男	80.0	80.0	80.0	80.0
9歳	男	90.0	90.0	90.0	90.0
10歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
11歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
12歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
13歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
14歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
15歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
16歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
17歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
18歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
19歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
20歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
21歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
22歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
23歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
24歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
25歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
26歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
27歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
28歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
29歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
30歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
31歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
32歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
33歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
34歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
35歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
36歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
37歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
38歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
39歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
40歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
41歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
42歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
43歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
44歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
45歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
46歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
47歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
48歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
49歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
50歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
51歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
52歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
53歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
54歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
55歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
56歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
57歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
58歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
59歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
60歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
61歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
62歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
63歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
64歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
65歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
66歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
67歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
68歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
69歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
70歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
71歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
72歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
73歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
74歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
75歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
76歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
77歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
78歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
79歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
80歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
81歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
82歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
83歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
84歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
85歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
86歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
87歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
88歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
89歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
90歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
91歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
92歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
93歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
94歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
95歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
96歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
97歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
98歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
99歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0
100歳	男	100.0	100.0	100.0	100.0

- 『デンタルカリエス』の編者であるカリオロジーの重鎮2人が、齲蝕を学ぶためのスタート地点として書いた実践的テキスト
- 齲蝕とは何か？ どんなどきに修復を行うべきか？ 患者のモチベーションがうまくいかないときはどうしたらよいのか？——最新の科学的根拠に基づいた数々の提言が、カリエスコントロールを成功に導く

目次

プロローグ

Chapter 1 イントロダクション

- 1.1 オーラルヘルスケアの目標
- 1.2 なぜ患者は歯を失うのか
- 1.3 齲蝕の定義
- 1.4 齲蝕の分類

Chapter 2 齲蝕病変はどのようにして発生するのか

- 2.1 バイオフィルム
- 2.2 齲蝕の発生と進行
- 2.3 象牙質齲蝕の進行
- 2.4 齲蝕におけるミュータンス連鎖球菌の役割
- 2.5 根面齲蝕
- 2.6 齲蝕発生における唾液の役割
- 2.7 齲蝕における糖の役割

Chapter 3 診療での齲蝕の検出・診断・記録

- 3.1 何を、何のために知る必要があるのか
- 3.2 検出・診断のための前提条件
- 3.3 一般的に使用される視診の基準
- 3.4 診断のための補助的手段
- 3.5 検査のチャート化
- 3.6 齲蝕の分類

Chapter 4 齲蝕病変の発生と進行のコントロール

- 4.1 カリエスコントロールの概念
- 4.2 カリエスコントロールにおける口腔衛生の役割
- 4.3 カリエスコントロールにおけるフッ化物の役割
- 4.4 カリエスコントロールにおける食事の役割
- 4.5 カリエスコントロールの原則のまとめ

Chapter 5 どんなときに齲窩を修復すべきか

- 5.1 フィッシャーシーラント
- 5.2 どのような場合に充填が必要になるのか
- 5.3 齲窩はどこまで「きれい」にするべきか
- 5.4 乳歯への対応
- 5.5 永久歯への対応
- 5.6 ミニマルインターベンションは保存修復の解決策となるか

Chapter 6 患者とコミュニケーションを図り行動に影響を与える

- 6.1 誰が齲蝕をコントロールするのか
- 6.2 モチベーション
- 6.3 コミュニケーション
- 6.4 行動変容
- 6.5 モチベーションインタビューング
- 6.6 意志を行動に移す
- 6.7 失敗

Chapter 7 活動性齲蝕の患者のカリエスコントロール

- 7.1 はじめに
- 7.2 個人の齲蝕経験の原因究明
- 7.3 活動性齲蝕の患者への口腔衛生上のアドバイス
- 7.4 フッ化物
- 7.5 食事分析に基づくアドバイス
- 7.6 特別な配慮の必要なグループ
- 7.7 ガイドライン

Chapter 8 集団におけるカリエスコントロール

- 8.1 齲蝕の疫学
- 8.2 齲蝕の疫学情報の分析
- 8.3 カリエスコントロールの集団研究

エピローグ

効果的な口腔保健医療を提供するために歯科医療従事者はどう変わるべきか

伊藤直人先生から学ぶ最新のカリオロジーシリーズ

▶ <https://pr-contents.doctorbook.jp/cariesbook>

詳細は
QRコードから!



医歯薬出版 ご注文承り書

デンタルカリエス エssenシャル 原著第4版

注文コード 446770 ()冊

●納入店で指定希望
※納入店のご指定の場合
手数料はかかりません。

〔ご指定納入店名〕

●直送希望
(2つの方法から
お選びください。)

①	代引	450円
②	後払い	400円

※直送は、注文書到着の翌営業日(土日祝日除く)に発送します。②の請求書は(株)ネットプロテクションズから別送します。14日以内にお支払いください。返品は受付できません。

●お名前

●TEL

●ご住所(〒 —)

★必要事項をご記入のうえ、FAX03-5395-7633 にご送信ください。★弊社ホームページ <https://www.ishiyaku.co.jp/> からご注文いただけます。

医歯薬出版株式会社 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10